大分建設新聞社
2021年11月26日掲載

簡素化をさらに推進へ

大建協と県土木がWG

県建設業協会土木委員会と県土木建築部は22日、大分市内で2021年度の1回目となる「工事書類の簡素化に向けた検討会」のワーキンググループ（WG）を開いた。今回のWGでは、20年2月に策定し、21年3月に改訂した「工事書類簡素化の手引き」の内容について、受発注者へ8月に実施したアンケート結果などを基に意見を交換した。

大庭委員長があいさつ

協会の大庭浩司土木委員長が「書類の簡素化の取り組みも4年目となった。技術者の負担軽減をしなければ、業界に人は入ってこないということを念頭に、国はもとより、県も独自で簡素化に取り組んでいただき感謝する。今後も本当に必要な書類は何なのかなどを一緒に考えていきたい」、工事検査室の坂元大輔工事検査第二班参事（総括）が「説明会などを通じ、簡素化の周知をしている。きょうは、アンケート結果を基に、2021年度の簡素化案のたたき台を作成したので、意見をいただきたい」などとあいさつ。

意見交換では、受注者150社、発注者302人から回答を得たアンケート結果を基に、施工計画書、出来形管理・品質管理・安全管理の各資料について、参加した現場技術者などから話を聞いた。アンケートでは「手引き」に記載のある各項目についても、実施をしているかなどを聞いている。

県土木建築部では、今回出た意見などを参考に、2021年度の「簡素化の手引き（改訂版）」案を作成。再度WGを開催し、協会側と協議を経て22年度から運用をしていく予定。

アンケート結果の主なものは次の通り。

（一番多い回答のみ掲載）

簡素化の運用後において、最も時間がかかる工事書類は

工事写真	30%
施工計画書	26%
出来形管理	17%
安全管理	4%
品質管理	4%
そのほか	3%
出来高管理	3%
無回答	13%

▽簡素化に取り組んでいることを知っているか＝知っており実践中（87％）▽簡素化の内容について評価を＝評価する（77％）▽簡素化の運用後、最も時間がかかる書類は＝工事写真（30％）※表参照▽情報共有システム（ASP）は活用しているか＝している（62％）▽書類の電子納品を活用しているか＝している（54％）▽「手引き」に記載のある各項目の実施状況＝60～80％前後で完全に実施している。

（大嶋）